

令和2年11月4日

内部質保証およびそれを支える評価・IRに関する実践セミナー  
－内部質保証の理想と現実のギャップを埋める－

大学評価コンソーシアム

1. はじめに

現在、大学評価コンソーシアムでは、内部質保証の理想と現実を埋めるための「方法論」(実践事例の一般化およびそれを支える評価やIR機能整理)のとりまとめをこれまでのセミナー等の蓄積の整理により進めています。

我が国では、内部質保証、評価、IRに異動を伴う事務系職員の方が数多く携わっています(大学評価コンソーシアム会員のうち78%が事務系職員)。その結果、毎年、他部署から異動されて初めてこれらの業務を担当される方がいらっしゃる一方、専門性を高めようにも、その前に他部署に転出されてしまうケースも少なくありません。

そこで、遠隔授業等で培った教材作成ノウハウも活用し、内部質保証の理想と現実を埋めるためのマネジメントの考え方、評価やIRの具体的手法を学修コンテンツの形にまとめ、会員のみなさまが自主的学修にご利用いただけるよう整理、公表することを目指しています。

そのために、これまで開催したセミナー資料、評価・IR担当者のループブックやガイドラインのブラッシュアップ作業および教材化を進めております。それらの進捗状況のご報告を兼ねた実務担当者向けの勉強会を開催し、コンテンツ改良のためのご意見、ご提言をいただきたいと考えております。(話題は、既に公表しているものをベースとするため、最先端の話題はあまりありません。これまでの話のとりまとめですので、場合によってはこれまで聞いた話を再び聞くこととなりますのでご注意ください。)

2. お申し込みいただける方、定員等

- ・ 現在、高等教育機関において、内部質保証(教育の内部質保証、教学マネジメント、エンロールメント・マネジメントを含む)の実務[企画、運営]およびその支援業務(大学評価、IR)に従事されている方のうち、基本的な説明が不要の方。
- ・ 定員は15名とします。話題提供者、最低限の進行スタッフを含みます。最少催行人数は設定しません。5、6名でも開催します。(仮に、満席になっても増員や追加開催はありません。教材の公開までお待ちください。)また、受付開始24時間以内は1大学1名のお申し込みとさせていただきます。
- ・ 参加者の方には、現場の状況などを踏まえたご発言をいただく予定です。
- ・ 原則、オンラインでの開催となります。
- ・ 各回は独立しています。連続して参加する必要はありません。

3. ラインナップ(第1期)

第1期テーマ: 内部質保証に資する評価・IR実務を考える

第1回：内部質保証の理想と現実のギャップとは何かを考える

令和2年11月19日（木）13:30-15:00

13:30-13:35 趣旨説明（畠田）

13:35-13:55 話題提供1：浅野茂（山形大）：「内部質保証に関する政策的な流れと米国の状況」

- ・（理想編）我が国が求めていると思われる理想的な状況とはどのようなもので、なぜ、そのような流れになっているのか。米国や欧州の状況に青い鳥や青い芝生はあるのか、否か。

13:55-14:15 話題提供2：畠田敏行（茨城大）・大野賢一（鳥取大）「内部質保証実践事例」

- ・ うまく回っている（気がする）事例とうまく回っていない（と思う）事例を要因とともに紹介し、後半の議論の素材としたい。

14:15-15:00 総合討論：話題提供者を中心に参加者を交えたディスカッションを行います。

※以下予定です。議論の進展によって内容の変更があります。

第2回：「評価・IRとはなにか」我が国における基本機能を振り返る

- ・ 教育の内部質保証体制を支える場合、評価・IRを企画・総務系ではなく、学務系部署に隣接させ、教学マネジメントのハンドリングを行っている教務企画と直結させる、という手法もある。
- ・ 内部質保証、評価やIRの実施主体を学内のどこに配置すれば、もっとも効果的に内部質保証体制を動かすことができるのだろうか。話題提供をもとに議論を進めたい。
- ・ 話題提供としては、IR組織を立ち上げる、運用する際の課題の整理結果を報告予定。

第3回：評価・IR人材に求められるスキルと知識とは何か。

- ・ 内部質保証体制を支える大学評価および評価・IR人材については、会員のみなさまのご協力もいただき、平成30年7月調査をもとにループブックとして整理している。このループブックが内部質保証体制の構築と運営支援という、昨今の評価やIRのニーズに際し、十分活用できるのかどうかを検証し、必要があれば、修正を行いたい。（参加者にもその場で回答してもらい、現状をシェアしながら進める。）
- ・ 平成27年3月調査からの変化についても可能な範囲で触れていきたい。

第4回：実践知から得られた収集業務のフローチャートとFAQ

第5回：実践知から得られた分析業務のフローチャートとFAQ

第6回：実践知から得られた改善業務のフローチャートとFAQ

- ・ 大学評価コンソーシアムにおいて作成した、評価やIR業務のためのガイドライン（Q&A）のブラッシュアップを行い、それを解説したい。
- ・ その際には、各業務の実施フローチャートの更新も合わせて行いつつ、何が変わって（解決して）、何が変わっていないのか（課題のままなのか）、ということについても考えたい。

第7回：動く内部質保証体制と評価、IR

- ・ 総合的討論となるが、以前、作成した「IRの立ち上げのためのQ&A」をもとに内部質保証の構築と運用に資するIRのQ&Aとしてアップデートし、第1期のまとめ、としたい。

間隔：概ね月1回（90分）を目標とする

#### 4. 申し込み方法

- ・ 大学評価コンソーシアム会員専用ページからお申し込みいただきます。
- ・ 各回の内容は、開催の1週間前までには、みなさまにお知らせし、3日前までには申し込みを開始します。

#### 5. 留意事項

- ・ 勉強会の性格上、録音、録画を行います（ご参加のみなさまにおかれましては、録音、録画はご遠慮ください）。ご発言の一部などを教材に活用させていただく場合もあります。
- ・ 参加費は（実験的な企画となりますので）無料です。
- ・ 教材自体の難易度は、1年目から2年目程度の方をターゲットとしたものですが、基本的な説明は行いません。これまでの知識の再確認や整理を行いたい方のご参加を想定しています。

#### 6. 実施責任者

- ・ 各会の議論の進行、コンテンツ作成（チーフ）は以下の者が担当します。

茨城大学 全学教育機構 総合教育企画部門 畷田 敏行

toshiyuki.shimada.ir@vc.ibaraki.ac.jp